

ひかり と 山梨 向後文治郎

十月三日、県政発展に大きな功績のあった人を表彰する式典が行われました。
県政功労者七十七人、九団体の中で、林義功労に白磯の向後文治郎さんが表彰されました。



向後さんは、昭和二十五年から九十九里浜一帯の砂地に松などを植林、管理を行ない、その功績が表彰されたのです。
この仕事を始めた動機は

朝鮮の総督にいたとき、當林省に勤めていました。のちに日本に引き上げ、食うや食わず、困っていたときに知人の紹介で、この道に入りました。また、この仕事が好きであつたからです。

植林、管理範圍の規模は、現在はずべて植林も終り、管理だけですが、銃子から山武郡白子町と、銃子から佐原までの二帯で

わかめの料理

(レバニ) 貧血気味の方によいとされていますが、あの臭きかどうもと思われの方に、次のようにすると大変喜ばれます。

▽材料

レバー四〇〇g、玉ねぎ中塩個はるさめ塩束、土しよが少々、白ごま少々、ごま油小さじ一杯、小麦粉少々、サラ茶葉五、六枚、酒、味りんは大さじ一杯、醤油

大きじ四杯、砂糖大さじ二杯
▽作り方
血抜きしたレバニを一口大に切り、玉ねぎのおろし汁をかけ酒大さじ一杯と醤油大さじ一杯につけ、しばらくおきます。

小麦粉をうすくまぶし、一八五度から一九〇度の油で、約四十秒位で手早く揚げ、油を他の器に移します。合わせ調味料を三、四回に分けて、からませるようによします。この時、シューーと言ふ音がします。

最後に、ごま油小さじ一杯を

お知らせ

す。
―当時、この仕事を始めたときに一番苦労したことは
現在のようにならぬ交通機関も発達していないから、遠くは銃子、白子町まで歩いて、数日かかりで松を植えました。また、終戦後もないの、非常に世の中が混乱していたので、木のぼつぎなどが多く、その管理に目をくばりそのため、地域住民の皆さんには恐い存在であつたのです。

◎結婚

(一) 関 熱田長男―石田 緑
(六) 区 伊藤洋一郎―香取光枝
(五) 〇 神 向後正克―松本正子

鍋肌から流し込み出来上りです。

はるさめは、盛り付けに使うので、高温でさつと揚げると膨張してきれいです。そして直ちに塩小じ一杯をかけます。盛り付けは、お皿に揚げはるさめを盛り、レバニの上にごまを振りかけ、はりしよが(線切りのしよがを水にさらしたものを)をのせませ。さらにサラ茶葉ごと供しように並べ、木戸 小口 春枝

木戸 小口 春枝

篤志寄附

- (宝) 米 土屋利夫―小川 啓
- (白磯) 川野芳治―並木ふじ枝
- (台) 鈴木嘉明―下次弘子
- (二) 子 斉藤好史―高野純子
- (母) 子 山田明宏―藤野純子
- ◎お誕生
- (芝崎) 飯島 実―長女 裕子
- (橋場) 五喜田光治―長男 正人
- (橋場) 斉藤貞男―長女 明子
- (橋場) 最上 峻―長男 一郎
- (三) 区 伊東尚季―長女 佐知子
- (作間内) 竹内康男―長男 寛晶
- (六) 区 池辺義夫―長男 義一
- (橋場) 平野元親―長男 秀直
- (虫) 生 深田 和―長女 友紀
- (三) 区 越川元治―長男 健
- (白磯) 石橋勝男―三男 孝之
- (作間内) 平山新一―長女 津子
- (橋場) 椎名 恒―長女 美由紀
- (一) 辻 松村行泰―二女 英理子
- (母) 子 中川建治―二女 敦子
- (橋場) 椎名茂道―二男 大紀
- (小田部) 霞川邦夫―長女 裕子
- (一) 辻 實川明―二男 光治
- (台) 鈴木 明―二男 勇二
- (西高野) 鈴木唯夫―長男 隆隆
- (橋) 橋 川小柴雅―長女 美穂
- (橋) 橋 渡辺洋信―二男 美意
- (目) 孫 伊藤 勤―長女 智子
- (作間内) 矢城 一男―長女 麻実子
- (目) 孫 豊 満―長男 秀一
- (宮内) 勝田豊明―長女 忠美子
- ◎おくやみ
- (白磯) 菅井 さき 女 83才
- (三) 区 郡司 憲治 男 79才
- (長塚) 伊橋 せる 女 76才
- (芝崎) 関口健一郎 男 72才
- (虫) 生 深田 正就 男 74才
- (白磯) 大口 好女 女 70才
- (白磯) 大田 好女 女 70才
- (橋) 橋 藤雄 男 90才
- (目) 孫 鶴沢 嘉一 男 78才
- (白磯) 川島 嘉一 男 76才
- (三) 区 石毛 久 女 85才
- (大) 源治 宮川六〇―一六番地 (敦志寄附)
- 東陽剣道スポーツ少年団(剣道防具五組)
- 上原五一―五番地 竹内 洋祐
- 教育設備資金として二十万円
- 宮川四四七九番地 大木 洗子
- 社会福祉資金として十万円
- 水戸一二〇番地 畔森工務店
- 公民館施設整備資金として一〇〇万円
- 水戸八二―二番地 伊橋 正弘
- 公民館に灰大砲壹台
- 宮川五五〇四番地 伊橋 武夫
- 公民館にナショナル音響時計一台
- 高川四四九三番地 藤代 敏子
- 公民館に書籍を二五四冊
- 高川五五四二番地 佐々木梅子
- 公民館に書籍を十三冊
- 水戸六一七七番地 椎名 優
- 公民館に書籍一万円相当
- 高川五六二―一番地 斉藤正太郎
- 八日市場市 山崎 茂雄
- 公民館に掛軸一幅